

# まちづくりの計画を練る

## 美郷町総合計画を策定

### 美郷町の将来像

「町民のだけれもが住んでよかった、住みつづけたいと思えるまち」を目指して

総合計画の三つの柱の一つである「基本構想」では、美郷町の将来像を「町民だけれもが住んでよかった、住みつづけたいと思えるまち」と定め、若者からお年寄りまでの町民だけれもが「ゆとりやうるおい」を享受でき、活力にあふれ、元気を創造できる町にするため、町民だけれもが美郷町に住んでよかった、これからも美郷町にずっと住みつづけたいと思えるまちづくりを、▽住民意向の把握▽均衡ある地域の発展▽地域一体化の推進▽行政サービス水準の維持、向上の4点に留意して進めていくこととしています。

### 将来像へのキャッチフレーズ

「美郷がいちばん、すきです美郷」

また、その将来像を実現していくた

めには、町民ニーズを的確に把握し、

地域や年代を超え相互に理解しあいながら費用対効果を十分に見極めたうえで、事業を実施していくことが必要であるとともに、行政が何をするかということだけではなく、町民一人ひとりが美郷町の一員として何ができるかを考えていかなければなりません。

そのため、町では、行政も町民もまちづくりの主人公として「美郷がいちばん、美郷が好きです」という自覚をもって、町民と行政が一体となってまちづくりを進めていくことを目指しています。

### キーワードは

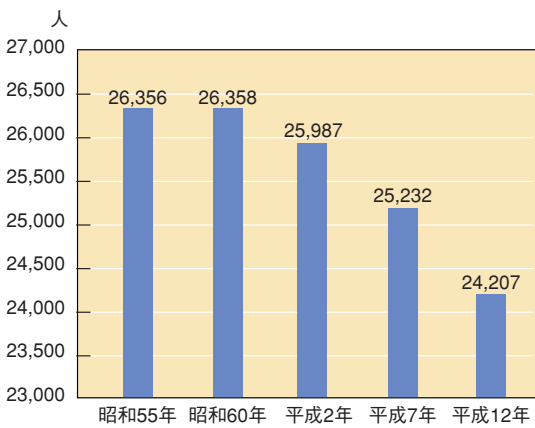
「共助・共生・創意・安定」

さらに、将来像を実現するための基本理念として「共助・共生・創意・安定」を掲げるとともに、それぞれの分野で将来像を実現するための8つの基本目標を定めました。

## 美郷町の背景

### 〈人口の推移〉

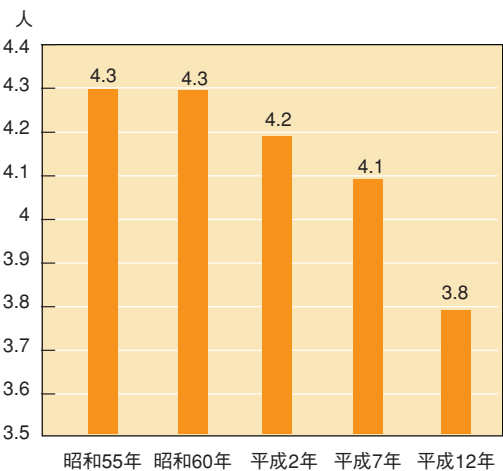
平成12年国勢調査による美郷町(旧3町村)の人口は24,207人で、昭和55年から平成12年までの20年間で2,149人減少し、この間の人口減少率は8・2%です。また、平成2年から平成12年までの10年間の減少率は6・8%で、減少傾向に歯止めがかからず漸減しています。



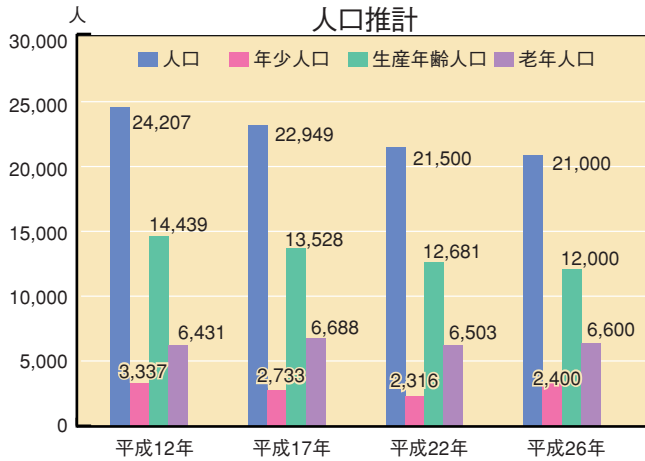
### 〈世帯数の推移〉

このペースで人口が推移した場合、平成17年に22,949人、平成22年に21,500人、平成27年には19,934人と推計されています。

平成12年国勢調査による世帯数は6,297世帯で、1世帯あたりの



美郷町のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくため、その基本的な方針や将来像、目標を掲げ、その実現のための主要施策や施策事業を推進する「総合計画」が、八月三十日から開かれた町議会定例会で可決されました。  
この総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の三編から構成されており、平成十七年度を基準年度とし、目標年度を平成二十六年度と設定した十年間の計画となっています。



出典●国勢調査・(財)日本統計協会資料

まちづくりの「8つの目標」

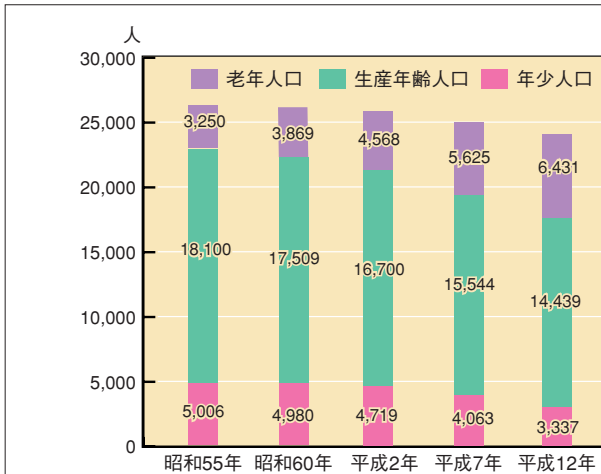
- ・ 快適なまち
- ・ 自然にやさしいまち
- ・ 健やかなまち
- ・ 心豊かなまち
- ・ 人がふれあうまち
- ・ 活力のあるまち
- ・ 安全で安心できるまち
- ・ 町民主体のまち

また、「基本構想」では、魅力あるまちづくり、産業等の振興、定住人口の拡大など、構想の着実な実施により、十年後の美郷町の人口を21,000人、世帯数は1世帯あたりの人員の見

総合計画の構成

	内 容	期 間
「基本構想」	まちの将来のあるべき姿やまちづくりの目標、施策の大綱を示したもの。	平成17年度～平成26年度
「基本計画」	基本構想に基づいた目標達成のための考え方、施策の展開方向や主な事業をまちづくりの分野ごとに示したもの。	前期計画 平成17年度～平成21年度 後期計画 平成22年度～平成26年度
「実施計画」	基本計画で示した施策を具体化した事業計画で、毎年度ごとの予算編成や行財政の総合的な計画運営の指針とするもの。	3年間のローリングシステムにより、予算や制度によって毎年見直しを行います。

通しを3・19人と推計し、6,590世帯、年齢別人口を年少人口(0～14歳)2,400人(11・4%)、生産年齢人口(15～64歳)12,000人(57・2%)、老年人口(65歳以上)6,600人(31・4%)という目標を設定しました。



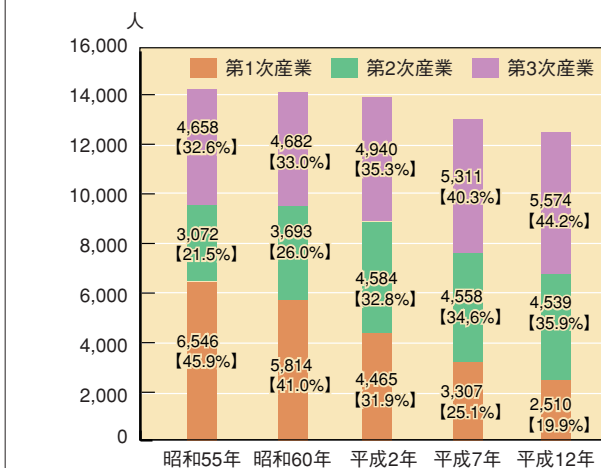
平均世帯員数は3・84人です。これを平成2年国勢調査と比較すると、世帯数で107増加し、1世帯あたりの平均世帯員数では0・36人減少しており、核家族化が進んでいます。

年少人口(0～14歳)の総人口に占める割合は平成2年に18・2%で、平成12年には13・8%となり減少率は29・3%と総人口を上回る比率で減少しています。

また、納税者の中核である生産年齢人口(15～64歳)も同じく減少傾向が続いています。

その一方で、老年人口(65歳以上)は、依然として増加の傾向にあります。

〈年齢別人口の推移〉



出典●国勢調査・(財)日本統計協会資料

総就業数に対する第1次産業の就業者の割合は昭和55年に45・8%で、平成12年には19・9%まで減少しています。

また、第2次産業の就業者は、平成7年から減少に転じています。

一方、第3次産業の就業者は年々増加し、平成12年には44・2%と産業別人口の半数近くを占めるようになりまし。

総就業者数についても、昭和55年に比較して平成12年には11・5%減少しています。

〈産業別人口の推移〉

# ジャンプ

到達目標

住民一人ひとりと行政が  
相互に理解しつくるまち

5年後・10年後の目標

- 各種審議会・委員会委員の公募の実施
- 町民意向の把握のため広聴制度充実

# ステップ

施策と内容

- 各種審議会・委員会の公募による行政参画の推進
- 各種イベントへの住民参画の推進
- 町民の意識や意向の把握と町民が参加しやすい広聴活動の充実
- 町政座談会、ふれあい談話室、ご意見ハガキ(年4回)等の実施

# ホップ

現状と課題

新しいまちづくりのためには、行政が何をするのではなく、町民一人ひとりが何ができるのかを考え、町民と行政が一体となって進めていくことが肝要です。そのためには、町民の方々が積極的にまちづくりに参画する意識と体制づくりが必要です。

また、広報の発行やホームページの運営などによる行政情報等の提供、座談会や談話室、ご意見ハガキなど広聴活動への積極的な取り組みが必要です。

## 目標に向かって ホップ・ステップ・ジャンプ

一方、総合計画の二つ目の柱である「基本計画」では、まちづくりの8つの目標をそれぞれ3から5の項目に分けて具体化し、最終的な到達目標に向かって「ホップ」(現状と課題)、「ステップ」(施策と内容)、「ジャンプ」(到達目標)と進んでいく計画となっています。

例えば、「町民主体のまち」では住民参加の推進の「住民のまちづくり参加の推進」の中で、「住民一人ひとりと行政が相互に理解しつくるまち」を到達目標とし、ホップ・ステップ・ジャンプを構成しています。(上の図を参照)

## 「実施計画」は3年間のローリングシステムで毎年見直しを実施

このほか三つ目の柱である「実施計画」は、基本計画で示した施策を具体化した事業計画で、3年間のローリングシステムにより、毎年度ごとの予算や制度により毎年見直しを行っていくことにしています。



## 「基本計画」策定までの経過

美郷町総合計画の策定にあたっては、町内の各団体等の代表者など十三人で構成された総合計画審議会で六回にわたり審議されたとともに、六月上旬から実施した町民アンケート、行政座談会などで町民の皆さんからご意見やご要望をいただきました。

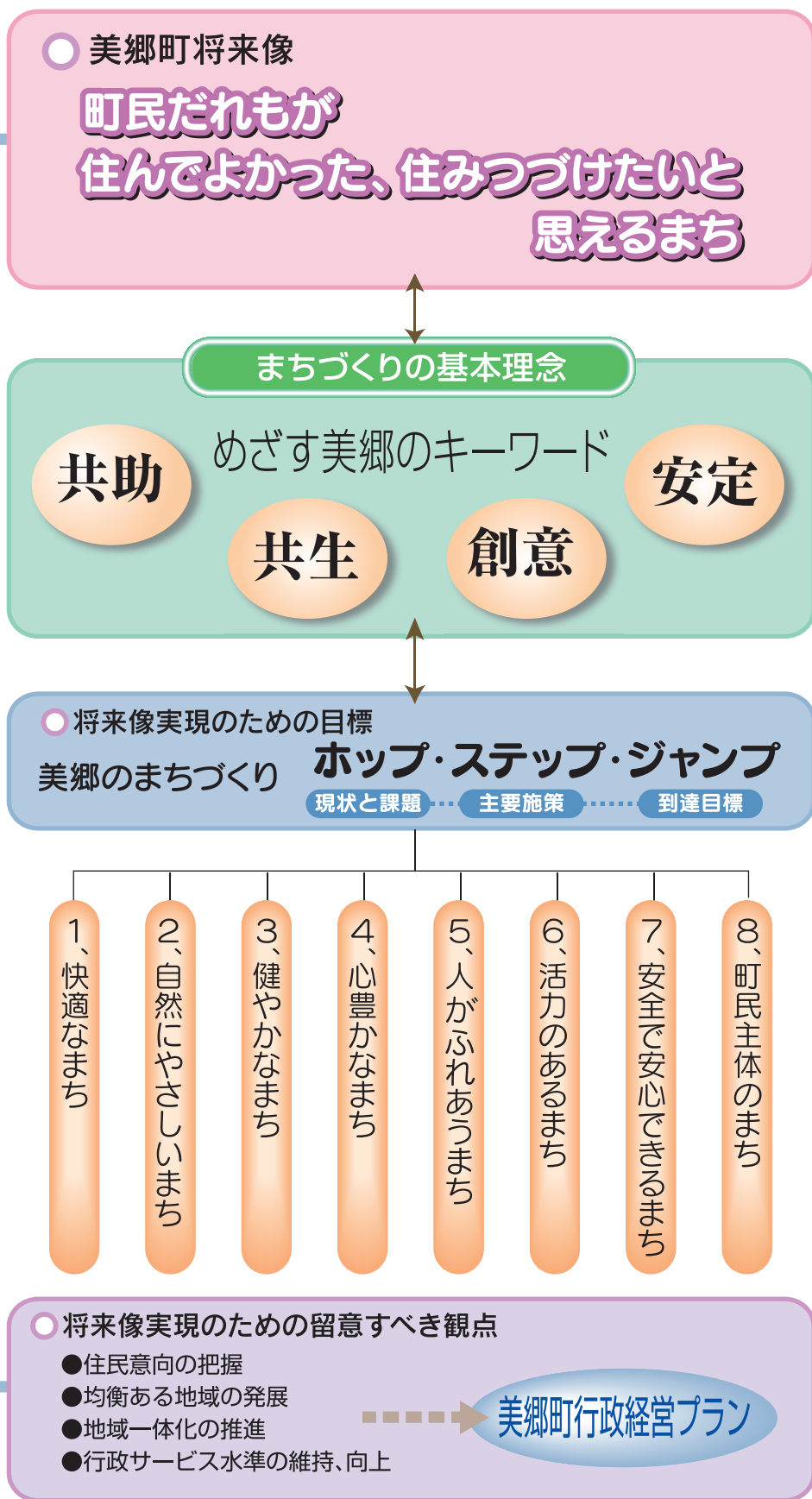
〈平成17年〉

- 2/26 第1回総合計画審議会
- 4/27 第2回総合計画審議会
- 5/23 第3回総合計画審議会
- 5/30 第4回総合計画審議会
- 6/6 町議会全員協議会で「基本構想」(案)を説明
- 6月上旬 町民アンケートを実施
- 6月下旬～7月上旬 行政座談会で内容を説明(町内15会場)
- 8/8 第5回総合計画審議会
- 8/22 第6回総合計画審議会
- 8/29 町議会全員協議会で「基本計画」(案)を説明
- 8/30 町議会定例会で「基本構想」(案)を議案上程
- 9/2 町議会定例会で「基本構想」を可決

# まちづくり体系図

美郷町将来像へのキャッチフレーズ

美郷がいちばん、すきです美郷



●「美郷町総合計画」(基本構想・基本計画)の全文は、町のホームページで見ることができます。  
(URL <http://www.town.misato.akita.jp/madoguchi/kikaku/kikaku/sougou/sogokeikaku.asp>)